

第24回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会ミニバスケットボール競技  
茨城県大会結果速報(初日男子第一試合)

平成17年7月30日

[Aコート9時40分開始]

男子Aブロック第一試合

下妻ジャスティス	30	12	VS	14	54	吉川
茨城B		4		8		
		10		11		
		4		21		埼玉

- 1Q 下妻、吉川を中心に確実に加点。一進一退の攻防となる。吉川2点リードにて2Qへ。
- 2Q お互い粘り強いディフェンスを展開。高さに勝る吉川に対し、下妻スチールで対抗するも、吉川のリード6点に広がる。
- 3Q 吉川の高さに下妻粘りで対抗。吉川引き離しに掛かるも下妻粘って7点差にて最終クォーターへ。
- 4Q のゴール下のゲームコントロールに劣えを見せディフェンスも粘った吉川。下妻もを中心に反攻するもなかなかリズムを作れず、吉川が点差を拡げて終了となる。
- 総評 吉川は粘り強いディフェンス、破壊力に富むオフェンスを持つまとまりのあるチーム。下妻も攻守にまとまりを見せるも、最後まで集中力が勝敗を分けた。

(戦評) 細谷 文彦

[Bコート9時40分開始]

男子Bブロック第一試合

習台二	51	15	VS	8	39	池の川
千葉		10		13		
		16		4		
		10		14		茨城A

- 1Q 開始すぐ習台二のポストからのシュートでゲームがスタート。池の川は1Q通して硬さが見られたが終了のブザーと同時に2Qにつながるシュートが決まる。1Qのゲーム展開は習台二のインサイドからの攻めが多く見られた。
- 2Q 池の川がロング・ミドルシュートを放ち、追い上げるが開始1分で7ファールになりプレスが消極的になる。習台二のインサイドのプレーで得点を重ねる。
- 3Q ゆっくりとした展開ながらも確実な習台二のアウト・インサイドからのプレーで得点を重ねる。池の川はのロング・ミドルシュートで攻撃を試みるが得点に結びつかず。
- 4Q 池の川のインサイドプレーが得点になるようになったが、習台二ののゴール下の得点が確実に決まり引きはなしをはかるが、池の川がミドルシュートで追い上げる。点の取り合いになり4Q終了。
- 総評 ゲームは習台二のゴール下の力強さが目立ち、池の川はロング・ミドルシュートの思い切りの良さが目立った試合になった。ゲームは習台二が勝利したが、両チーム共気迫の入ったゲームになった。

(戦評) 杉山 昌彦

[Cコート9時40分開始]

男子Cブロック第一試合

開桜小	25	11	VS	6	44	海老名中央
東京		8		14		
		6		12		
		0		12		神奈川

- 1Q 開桜はハーフからプレッシャーをかけ海老名中央はゾーンディフェンスで試合が始まる。お互い緊張からか、ミスが目立つが開桜は6番のカットインで得点を重ねる。海老名中央はリバウンドシュートで何とか追い上げ5点差で終了
- 2Q 両チーム共にオールコートでプレッシャーをかけるが、お互いにファールが多くなる。海老名中央は4番のインサイドプレーがひかり、開桜を逆転する。一方、開桜も速攻で得点をとるが、海老名中央が1点リードで後半に入る。
- 3Q 後半に入ると、お互いにゾーンディフェンスで我慢の試合展開で始まる。海老名中央は高さを活かし確実に得点を重ねる。開桜もアウトサイドや速攻で得点するが、海老名中央が試合の流れをこのクォーターでもぎとった。
- 4Q このクォーターも同じディフェンスで始まるが、3Qからの流れもあり、海老名中央の動きに躍動感が出てきた。一方、開桜もアウトサイドで勝負するが、海老名中央の流れはかわらず、このまま試合が終わる。
- 総評 第一試合目という事もあり、お互いに緊張している様に見えたが、両チーム共に自分達の持ち味を出し、緊張感のある試合だった。お互いに次の試合に期待が持てる内容だった。

(戦評) 木村 晃